

2023年度

入学試験問題

# 社　　会

40分

1. 受験番号・氏名を解答用紙に書くこと。
2. 受験番号は算用数字で書くこと。(例:123)
3. 鉛筆などの筆記用具・消しゴム以外は使わないこと。
4. 用紙を立てて見ないこと。
5. 質問(印刷不明のところだけ)のある場合、鉛筆などを落とした場合、トイレに行きたくなった場合、気持ちが悪くなった場合は、だまつて手をあげること。
6. 解答用紙のみ回収します。

以下の文章を読み、間に答えなさい。

みなさんは家庭で、また学校の給食で牛乳を飲む場面があると思います。牛乳は牛の乳から作られます。みなさんの中には、乳搾りの体験をしたことがある人もいるでしょう。この搾った牛の乳を「**生乳（せいにゅう）**」とよびます。

しかし、みなさんがふだん飲んでいる牛乳は、牛から搾った生乳そのままでありません。生乳にはさまざまな菌が混じっているので、そのまま飲むと腹をこわしてしまうことがあります。そこで、工場で生乳から脂肪分などを取り除いたり、殺菌をしたりするなどして、安全に飲めるようにしたもののが「**牛乳**」です。

また、生乳を利用してバターやチーズ、ヨーグルトなどが作られます。このような製品を「**乳製品**」とよびます。

日本ではどのように牛乳を生産してきたか、どこで生産してきたかを考えてみましょう。

**1** 江戸時代以前には、一般の人々に牛の乳を飲む習慣はありませんでした。そのことは、当時の外国人の残した記録からもわかります。ただし、鎖国をしていました江戸時代に、長崎の①出島では、外国人が牛を飼って牛乳を利用していました。

乳製品については、戦国時代にヨーロッパ人がバターやチーズを伝えて以来、日本人に知られてはいました。江戸時代にも出島では食用にしていました。また、蘭学者の書いた書物にも紹介されていました。実際に牧場を設けた例としては、徳川吉宗が今の千葉県にひらいた嶺岡牧場をあげることができます。しかし、江戸時代には乳製品は一般の人が口にするような食品ではなく、将軍家など一部の身分が高い人が、薬の代わりとして食べる特別なものでした。

牛乳や乳製品が広まっていくのは、開国以降のことでした。②1860年代に日本人が横浜で牛を飼って牛乳を搾って売りはじめ、その後、東京にも広まっていきました。一般の人々の間に広まっていったことは、③海外に渡った日本人の中に牛乳や乳製品を現地で口にした者がいたり、日本でも欧米人の食生活を見聞きする機会がふえたこと、書物などで牛乳や乳製品の効用が説かれるようになったことなどが影響しているようです。

問1 下線部①で幕府から貿易を許されていた国を答えなさい。

問2 下線部②について、横浜でこのような商売が始まった理由を、開国との関係を考えて答えなさい。

問3 下線部③について、アメリカに渡って帰国したあと、当時の欧米の様子を紹介した『西洋事情』や、『学問のすゝめ』を書いた人を答えなさい。

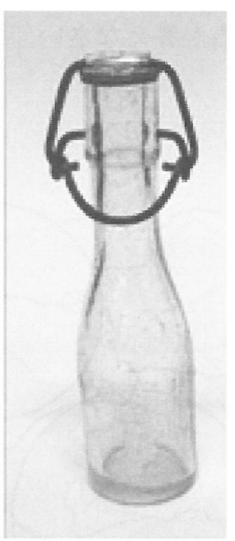
**2** 牛乳はとても~~くさり~~やすいので、安全に飲むために、明治時代のはじめから行政による監視や指導が行われていました。東京で1873年に知事から出された文書では、あまり人がいない静かな場所で搾乳することが勧められていたり、1878年に警視庁から出された規則では、器具の衛生的な取りあつかい方法が定められていたりします。

明治時代に、まず牛乳の普及が進んだのは病院でしたが、明治後半になると都市を中心に、家庭でも少しずつ飲まれるようになっていきました。当初は牛乳の販売店が④少量の牛乳を毎日配達するという形が多かったようです。また、はじめは【資料1】のように大きな金属製の缶に入れた牛乳を、ひしゃくですくって配っていたものが、しだいに【資料2】のような⑤びんに牛乳を入れて配るようになりました。びんは回収されて繰り返し使われました。さらに1928年、東京では配達用の牛乳には無色透明のびんを使うように定めされました。

【資料1】



【資料2】



武田尚子『ミルクと日本人』

一般社団法人全国牛乳流通改善協会ホームページ (<https://zenkaikyou.or.jp>) より引用

問1 下線部④について、少量の牛乳を毎日各家庭に配達するという方法がとられた理由を考えて説明しなさい。

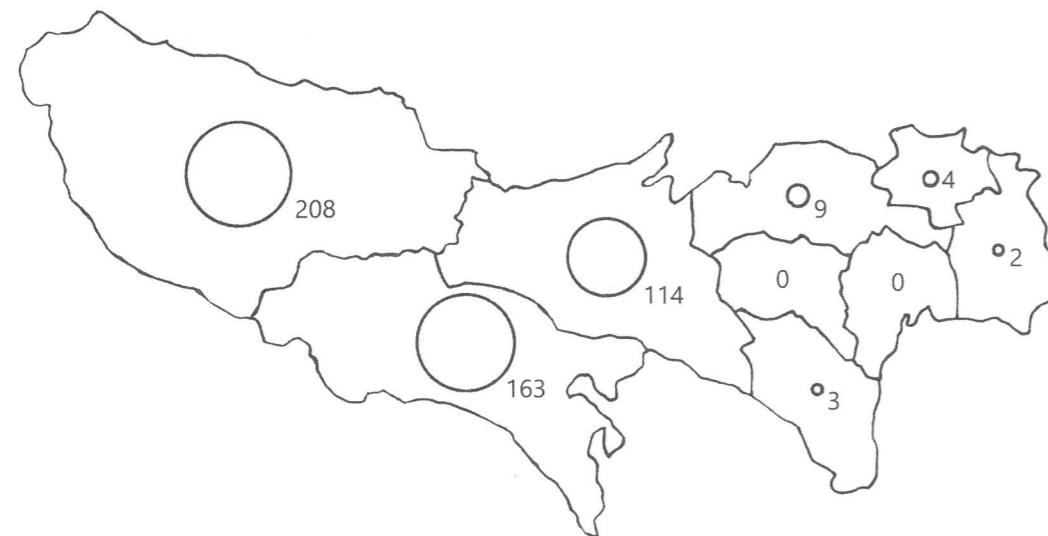
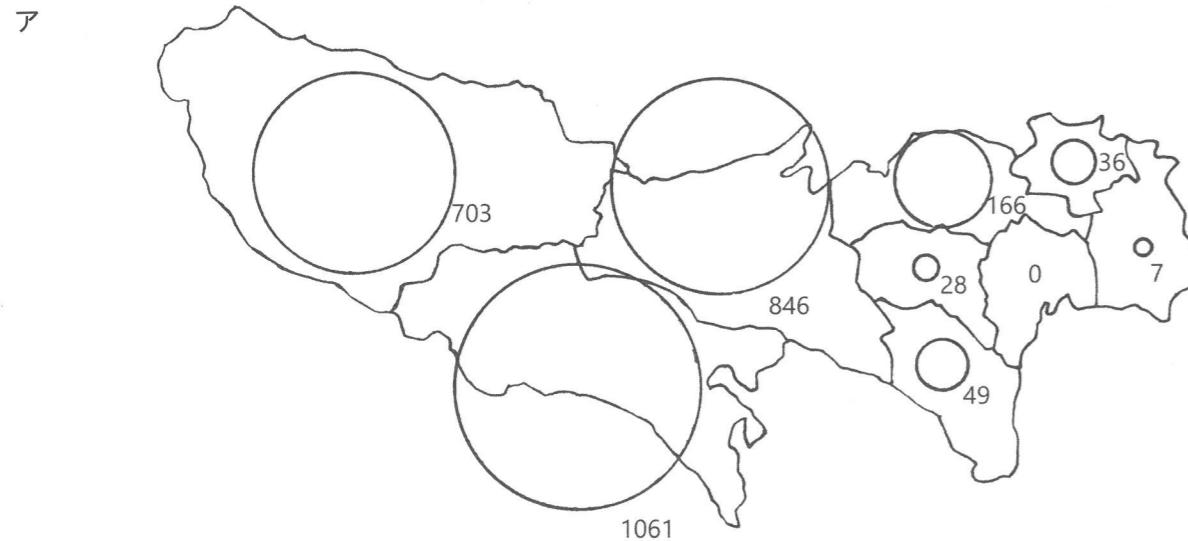
問2 下線部⑤について、牛乳をびんに入れて配ることが、ひしゃくを使って配ることに比べて、衛生面でどのような利点があるか説明しなさい。

3 「牛乳」はどこで生産されているのでしょうか。これを考へるにはまず「生乳」がどこで生産されているかということに着目しなければなりません。「生乳」は乳牛から搾られますが、乳牛を飼育しているのは酪農家です。すなわち酪農がどこで行われているかということに着目することになります。

東京都を例にしてみてゆくと、明治時代に牛乳の生産がはじめられたころは、⑥東京の中心部に牧場付きの牛乳販売店が増えました。ところが人家の密集したところに牧場があるのは衛生面で問題があるということから、1900年に政府が規制をはじめ、しだいに牧場は郊外へ移っていました。さらに20世紀後半には、東京都全体から業者の数が減っていくという変化をたどりました。

問1 下線部⑥のように、人口の多い東京の中心部に牧場があったのは、どのような良い点があったからでしょうか。考えられることを答えなさい。

問2 下のア～オは、1901年・1927年・1954年・1980年・2010年のいずれかで、東京都内にどこに乳搾りをする業者があったか、地区ごとに業者の戸数をあらわしたものです。ア～オを、年代の古い順に並べると、どのような順番になるか答えなさい。

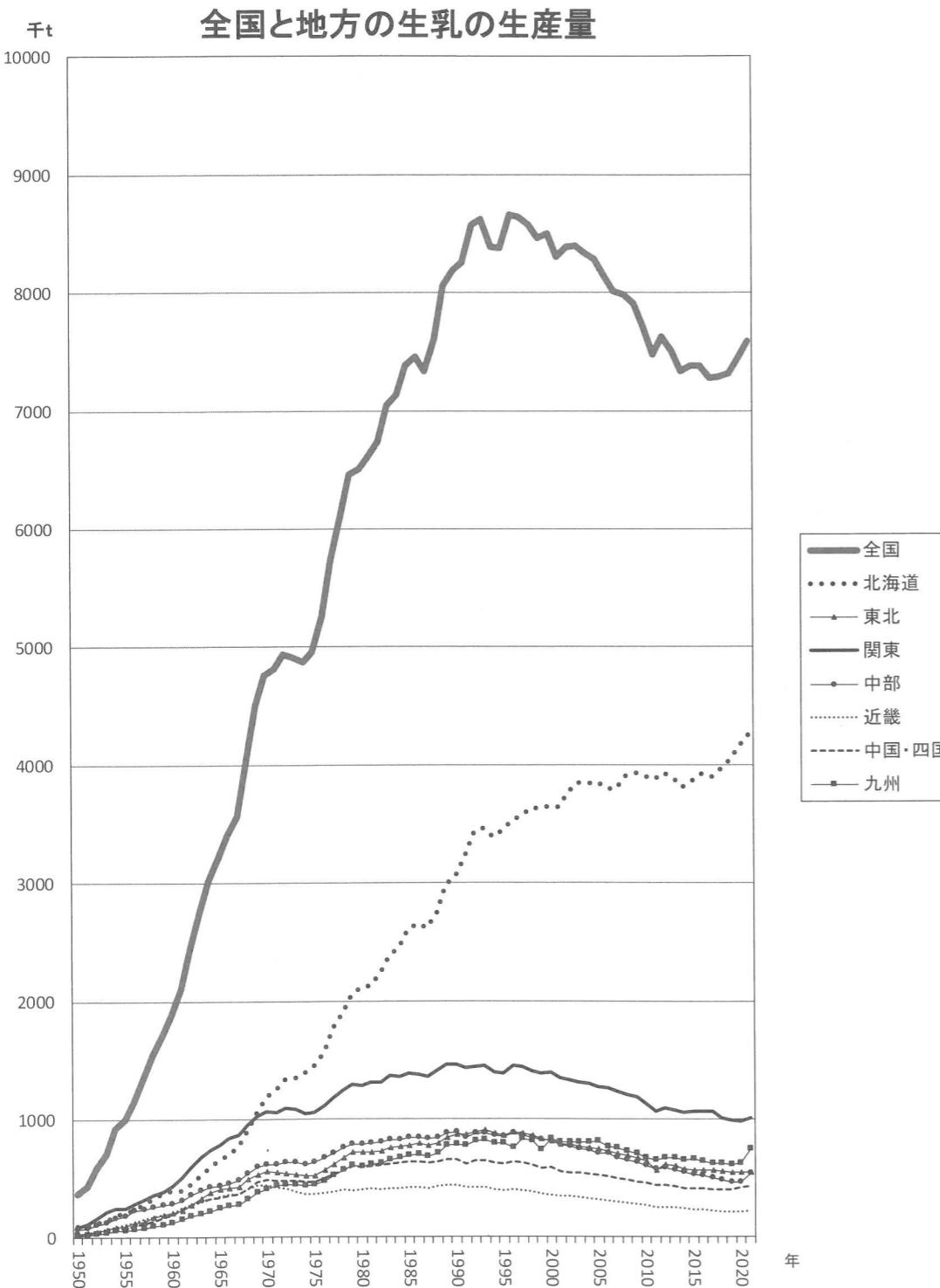


まえだひろみ・やざわよしゆき『東京ミルクものがたり』をもとに作成

海岸線は1889年当時の位置を推定したものです

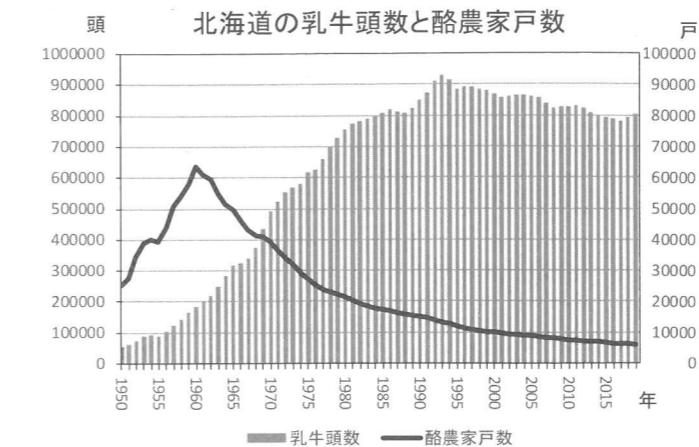
4 つぎに、第二次世界大戦が終わってから現在までの、日本の生乳生産量と、生乳が日本どこで生産されてきたかということを見てみましょう。【グラフ1】は全国の生乳の生産量と、地方別の生産量の移り変わりをあらわしたものでです。【グラフ2】は、北海道および神奈川県の乳牛頭数と酪農家戸数の移り変わりをあらわしたものでです。これらを見てあととの間に答えなさい。なお【グラフ2】の北海道と神奈川県のグラフでは、縦の目盛りの値が違っているので、注意してください。

【グラフ1】



『日本国勢団会』『牛乳・飲用牛乳・乳製品の生産消費量に関する統計』『牛乳・乳製品統計』をもとに作成

【グラフ2】



注: 酪農家戸数には乳牛を飼っている農家を含む

『牛乳・飲用牛乳・乳製品の生産消費量に関する統計』『畜産統計』『e-stat長期累計』『北海道農林水産統計年報』をもとに作成

問1 【グラフ1】について、1950年ごろから1990年ごろまで約40年間で、全国の生乳生産量の変化とあわせて起きていたと考えられることがらとして、ア～エから適切なものを1つ選びなさい。

- ア 1人あたりの牛乳消費量はあまり変わらなかった。
- イ 食生活が変化し、牛乳だけでなく乳製品の消費も増えた。
- ウ 外国へ輸出される牛乳が増えた。
- エ 廃棄される生乳の量が大幅に増えた。

問2 【グラフ1】について、北海道と他の地域の生乳の生産量の変化を比べて、次の(1)・(2)に答えなさい。

- (1) 1990年まではどのように変化しているか説明しなさい。
- (2) 1990年以降はどのように変化しているか説明しなさい。

問3 【グラフ2】について、1960年ごろから1990年ごろにかけての酪農のやり方の変化として、北海道と神奈川県で、ともに起こったことを答えなさい。またそのことについて、北海道と神奈川県を比べるとどのような違いがあるか、【グラフ2】からわかるることをもとに説明しなさい。

5 地域ごとの「生乳」の利用方法を調べていくと、「牛乳」に加工するときに「生乳」を他の都道府県から運んで「牛乳」に加工することも少なくありません。また「牛乳」に加工するだけではなく、乳製品の原料とすることもあります。下の【表】は、2019年に「生乳」の生産量が1位～3位、「牛乳」の生産量が1位～3位だった都道府県について、以下の①～⑥をまとめたものです。

- ①都道府県内の「生乳」生産量
- ②他の都道府県へ運ばれた「生乳」の量
- ③他の都道府県から運ばれた「生乳」の量
- ④都道府県内で「牛乳」に加工するために利用された「生乳」の量
- ⑤都道府県内の「牛乳」生産量
- ⑥都道府県内で乳製品へ加工するために利用された「生乳」の量

【表】

	単位はトン					
	①	②	③	④	⑤	⑥
北海道	4,048,197	529,547	なし	556,498	546,980	2,939,035
栃木県	330,598	179,591	8,151	156,902	150,673	706
神奈川県	30,947	なし	294,223	306,570	291,784	18,167
愛知県	160,406	27,300	83,933	205,705	188,925	10,634
熊本県	252,941	92,297	17,630	119,669	118,692	57,890

『日本国勢図会 2021/22 年版』、『牛乳乳製品統計 2019 年版』をもとに作成

北海道は「生乳」・「牛乳」とも生産量が1位で、神奈川県は「牛乳」の生産量が2位になっています。  
なお、ここでの「牛乳」には、成分を調整したものなども含みます。  
「生乳」と「牛乳」の違いに注意して、あとの間に答えなさい。

問1 【表】からわかる北海道の「生乳」の生産および利用のしかたの特色について、④で考えてきたことも参考にして、その理由として考えられることとあわせて説明しなさい。

問2 【表】からわかる神奈川県の「生乳」および「牛乳」生産の特色について説明しなさい。

問3 神奈川県で「牛乳」の生産量が多いことについて、どのような技術の進歩に支えられていると考えられるか説明しなさい。

6 日本で牛乳の普及が進んだ明治時代から現在まで、「生乳」の生産地と「牛乳」の生産地はどうに変わってきたでしょうか。生産地と消費地という点と、今までに起きた生産のしかたの変化に着目してまとめなさい。

1

問 1

※

問 2

問 3

2

問 1

※

3

問 1

問 2  →  →  →  → 

※

4

問 1

問 2  
(1)

(2)

問 3

※

5

問 1

※

問 2

問 3

※

6

※

受験番号		氏名	
------	--	----	--

評点	*
----	---